

十二 大八洲開拓殉難者追悼慰霊祭（昭和六十三年）

満洲開拓地を引揚げて、生き残った大八洲開拓農協の組合員および遺族達が、かつての入植地や避難と越冬の現地を昭和六十三年七月、四十余年振りに訪問した。異郷の入植地で、

開拓建設の半ばで間もなく黄土に埋葬されたままの物故者、そして数年の間とは申しながら一つ釜の飯で一つ屋根の下で開拓農業に苦楽を共にし、努力の甲斐なく揚句の果ては避難の道で、また、越冬生活のうちに無惨で非業な最後の別れと

なってしまった同志や家族に切ない思いをいたし、霊前に深い追悼と慰霊に心から冥福をお祈りして現地墓参の旅を終え帰国した。

その節、訪中団の皆さんが、その場その時の思いとともに物故者殉難者の方々の遺骨と心に決めて周囲の目をはばかりながらひそかに肌身につけて持ち帰った小礫を帰った後も今日まで大事にお守りしてきたので、遺骨として納めるため六

追悼慰霊祭



昭和63年11月23日
鈴木 信組合長の慰霊の辞



遺族を代表して参拝する遊佐いねさん



大八洲拓友会訪中団団員を代表して参拝する
石原八重子さん

十三年十一月二十三日、戦没殉難者の四十三回忌として追悼法要を執り行なうことになった。大八洲開拓では殉難者の留魂並びに組合員一同の俱会の場として組合墓地に留魂碑を建立したので、その前に祭壇を設け、今回現地の各地で営んだ時の慰霊の位牌と遺骨代りの小礫を安置して法要の儀を勤め、留魂碑の根本に納骨埋葬した。第一回訪中団員も残らず参列

十三 故佐藤孝治初代組合長追悼法要(平成六年)

戦前の大八洲開拓団長に引き続いて戦後の大八洲開拓農業協同組合長として大八洲開拓の生みの親、そして私達の育ての親として一生を賭して御苦勞御指導下された佐藤孝治殿が他界されてからすでに十六年、平成六年三月十三日には十七回忌の命日を迎えることとなった。昭和五十三年のこの日、最後のお別れ以来今日まで忘れようにも忘れることがなかった。組合員の中でも特に四十年の長い間もっとも交わりの深かった一世代から、自分達には最後になるかも知れないからこの機会に故人の霊前に改めて追悼と感謝の意を表したいとの切なる願いのもとに今回の法要を組合が主催することになり、あわせてスツ夫人の十三回忌の命日を翌年十二月十二日に迎えるので、この際御夫婦揃っての追悼法要を催すことに決した。

をいただき遺族親族も参集して、長年の間何一つ報いることのできなかった亡き皆さんの霊を故国にようやくお迎えし、身近においてお守りができることは積年の悲しい辛い苦しかった心も幾らかほぐすことができたと同思いながら、慰霊の安らかな眠りを心からお祈り申し上げ祭礼を終了した。

今回は、遺族並びに親族一同と生前の故人ととくに親交の深かった皆様を御案内して組合員一同が心ゆくまで追善供養を充分に勤めることにいたしました。

素住台公民館に祭壇をもうけ、御両人の御霊位と懐かしい遺影を揃えた御霊前に心から追悼の念を捧げ、感謝の意を表して御冥福をお祈り申し上げます。

1 追悼のことば —— 石田組合長

本日、故佐藤初代組合長の命日を迎えて十七回忌並びに故スツ様の十三回忌追悼法要を営むにあたり、懐かしい御夫妻の御霊前に謹んで申し上げます。親爺様と突如幽冥境を異にしてから十六年、御伯母様が十年三月の歳月が矢のごとく流れました。そして、今にして御在世ならばそれぞれ八十八歳